

# 女兒下著兼用のスウェーターの編み方

中島 しげ子

## ○先づ編物について

現代の婦人は少しでも自分の爲の時間Ⅱ家事に囚はれぬ時間Ⅱといふものを見出して勉強し度いと切望し且又其必要を十二分に認めるのでございます、

子女を教育する母として其用意をするのは勿論の事でございますが先づ其前に唯一個の人間となる資格を求めする必要があります。過去の日本の婦人の様に唯簡単な家事をおさめ、夫の隸屬物として、悠長に終日生花や點茶に時を過しておさまつては居られません。過渡期にある現代の人間は總べての方面に苦しまなくてはなりません。

皆様母上様方はやがて來るべきよりよき新時代の創造者となるべき幼子を完全に育てられる最も大なる使命を負ふて居られるのでございます。私共は今最も自重しなくてはならぬ時代におかれて居ります。一步でも進む爲には學ぶべき時を求めなくてはなり

ません、それには先づ生活を簡易になす事が第一でございます。生活の要素である處の衣食住を最も簡易に然し最も有意義にしなくてはなりません。下らぬ技工を用ふる事を何よりもさげなくてはなりません。と同時に簡易々々の一天張で美と云ふ事を打すてるといふ事は我々の生命を打こはすといふ事になります。

先づ衣服ことに一番御手もそこをる御子様方の御召し物について申上ます。御子様方の御召し物としては第一自宅で自由に洗濯の出来るもので體の發達をたすけるものでなくてはなりません。又子供らしい愛らしさをそへるものでなくてはならぬのも一條件でございます。各方面から見ても經濟的のものでしては冬の物には毛絲の加工品を自宅で御造り遊ばす事が先づ第一と存じます。之は親しい御客様の折等は随分御話し乍ら出來ます。唯編棒と毛絲さへあれば出來るのでございますから御裁縫の様にへら板や

針箱を出して大さわざ致す必要なく出来ること云ふ便利がございます。次に御承知の通り毛糸は（ここにミチルヅ毛糸は）美しく、最も軽く、保溫力が多く水分をはぎ、洗濯が自由で御子様方の御召物として理想的と存じます。

### ○下著兼帯のスウェーター

三歳Ⅱ六歳位 用糸 ミチルヅ、シエットラン

ドフロス……三捲

編棒 竹製玉付二本針七號三本

編物は、大抵手のなれる爲に後身頃から始めます。

先づ一番に七十三だけ目を造ります。次に表編許り一吋位なさいます。つまり出来た處は表と裏と一段おきになつて居ります。

次に籠目と云ふ細方を二吋許りなさいます。御存じない方々の爲に籠目の編方を一應申上げます。表三、裏七表三裏七を繰り返してなさいますと最後が表三でとまります。次に裏返して裏三表七裏三表七を繰り返します。第三段目は第一段と等しく表三裏七を繰り返しますと丁度表から見ますと表三裏七のものが三段出来たわけになります。次に一段裏許り

を致します。次に裏五をして表三裏三表三裏七を繰り返しますと終りが裏五で止ります。次は裏返して表五として裏三表七裏三表七を繰り返して終りが表五で止ります。第一段と等しく裏五をして表三裏七を致し又どほして裏を一段します。次に一番はじめにかへります。之を繰り返して二吋位致します籠目を切りの好い處まで致しましたら後は又表許りをつづけて丁度幅と同じ長さになるまで即ち四角になるまで致します。次はわきあけでございませう。

はじめの時に二目一度に致しますと一目減じたわけになります。かく始める時始める時に一目づゝへらして左右九つづゝ減らしましたら後はまつすぐに編んでわきあけが身丈の三分の一になるまでつまりわきあけの下までの半分の長さまでに致します。

丁度七十三の目から左右に今九つづゝ減らししましたから五十五になりました。此五十五の中肩を十五だけ編みまして中二十五だけを肩明として留めてしまします、留めます時は右針に左から二目だけ取つて初めの一目を後のかぶせませう。すると一つ目が留つたわけになります。又一つ左から右に移して先のを今移した目にかぶせませうかくして二十五とめま

すと右針にも十五残りります。こゝで暫時左針を此ま  
まにしてをいて右針の十五を二段だけ編み三段目を  
始める時に一つ増やします。此三段位の加減のない  
間の中央が肩山になるのでございますから肩山から  
折つてわきあけ方は後身に合はせて同じ傾斜になる  
様に九つ加やします。一方衿の方ははじめの時には  
一段おきに加やしておきあきと同じ處までふやしつ  
つ編みます。こゝで又此方の針は暫時やすめて左の  
休めてあつた方の針をより新らしい糸で始めます。  
はじめます時毛の尾はいつも中に編み込みませんと  
醜くなります。右と等しくふやして参りまして右よ  
り一段少なく編みますと丁度針の先が右にむきます  
そこで左の編みかけの糸を二寸位で切つて右針の  
糸と一緒にして左右の前身頃をつないで編みます。  
後は後身のわきあけの下と同じ長さに同じ模様  
にあみあげます。最後に留めます時は二つ編んで初め  
の目を後の目にかぶせ次に又一つづゝ編んでは初め  
のをかぶせかうをして参り最後に残つた一つの目に  
糸のはしをとほして止めます。すべて切つた糸はか  
ぎ針で中に入れます。糸をつぐ時はなるべく兩わき  
でつぎます様に遊されますと見ようでございます。

次にわきはかぎ針でひきぬきで止めます。引きぬ  
きとは先づ前後の身頃の裾を合せて(裏から)一番角  
に針を出して糸をすくひ、糸の尾を編み込んでこま  
編にせず、唯二枚透して目を出しては前の目に引き  
ぬきます。かうしてわきあけの處で固く固くとめま  
す。そして糸の毛を中にかくしてしまひます。  
左右のわきがどちつけられましたら首を袖付の處  
と裾とをかぎ針を用ひて一段引ぬきをして手際をよ  
く致します。

